

令和2年度 施策評価シート

まちづくりの目標	2	誰もが住みたい快適生活のまち
施策目標	1	【土地利用】都市機能と生活基盤が充実し、自然と調和した魅力的で活力あるまちをつくらう
施策の展開	① ②	・計画的な土地利用の推進 ・地籍調査事業

施策担当課	都市住宅課
関係課	農林整備課 都市住宅課

1 施策の現状・推移

5年後のまちの姿	<ul style="list-style-type: none"> ・都市施設の集積状況を基盤としたゾーニングに基づき、地域の特性に応じた土地利用の誘導が図られ、本市の中心部に集積された都市機能によって、にぎわいと活力を担う拠点市街地が整備されつつあります。 ・公共交通の充実と地域における生活利便施設の維持により、住み慣れた地域での暮らしが守られています。 ・地籍調査により土地境界が明確になることで災害に強いまちづくりができ、市民の資産の保全と土地の有効な利活用が促されています。
----------	--

2 成果指標・コストの推移

		単位	区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考
成果指標	特定用途制限地域内における適した建築物の建設数	件	目標	16	16	16	16	16	16	
			実績	11	10					
	丹波市に住み続けたいと感じる市民の割合	%	目標	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	75.0	
			実績	72.2	74.8					
	地籍調査進捗率	%	目標	33.0	34.2	35.7	37.2	38.6	40.1	
			実績	33.0	34.9					
			目標							
			実績							
コスト	人件費	千円	実績	44,280	51,318	51,318	51,318	51,318	51,318	
	事業費	千円	実績	99,309	86,231	189,533	122,349	122,349	122,349	
	計	千円	実績	143,589	137,549	240,851	173,667	173,667	173,667	
	うち一般財源	千円	実績	94,824	109,433	149,351	105,993	105,993	105,993	

※評価年度は実績、計画年度は予算

3 環境変化

国・県の方針、関連法令の動向	<p>【都市計画総務事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定用途制限地域の指定を行い平成28年4月1日より関係条例を施行した。 <p>【地籍調査事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国的に地籍調査の推進を図るため、国において令和2年度に国土調査法及び関連法案の改正が行われた。
市民ニーズの動向	<p>【都市計画総務事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・市街地及びその周辺では、居住環境の保全・用途の混在の防止等地域の特性に応じた土地利用誘導が求められている。また農村地域では、幹線道路沿道や集落周辺等区域を限定して開発を進めることが求められている。 <p>【地籍調査事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人口減少や市外土地所有者の増加に伴い、地籍調査未着手地域において、早期着手の要望がある。

4 評価

目標の達成状況は順調か。達成していない原因は何か。	<p>【都市計画総務事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まちづくりルールの土地利用計画については、「丹波市開発指要綱」や「特定用途制限地域における建築物等の用途の制限に関する条例」等により、ある一定の基準を以て開発誘導及び建築誘導を図ったことにより、無秩序な開発の抑制や住環境の改善に繋がり、定住意識が高まりつつある。
環境変化を踏まえた施策展開となっているか。	<p>【都市計画総務事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープランを改定し、中心拠点部及び副拠点部における土地利用規制の手法について検討を進める。 ・小規模な太陽光発電施設の建設や、設置後の維持管理並びに発電事業終了後の施設の撤去計画等における担保を取った指導について、関係部局と調整を図りながら、具体的なルールを構築していく。
事業の構成や役割分担で見直しの余地がないか。	<p>【地籍調査事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平地部の地籍調査は、市が実施主体となり調査を行う。山林部の地籍調査は、森林組合が実施主体となって調査を行っているが、財政面や調査事務などで、市が支援を行い進捗を促す必要がある。

5 今後の改革方向

施策の今後の方向性、構成する事務事業の見直し案	<p>【都市計画総務事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・都市計画マスタープラン改定に合わせて地域の特性に合った土地利用を図り、良好な都市環境の整備のために条例や運用基準について継続的に検討を行う。 <p>【地籍調査事業】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・山林部の進捗率を向上させるため、引き続き事業補助や業務支援などを継続して行う。
-------------------------	--

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名	地籍調査事業		
事業担当課	産業経済部 農林整備課	事業期間	平成 16 ~ 無期 年度
	所属長 近藤 克彦	担当 余田 隆之	担当

位置づけ	総合計画	まちづくり目標	【2】誰もが住みたい快適生活のまち
		施策目標	1【土地利用】都市機能と生活基盤が充実し、自然と調和した魅力的で活力あるまちをつくらう
	創生総合戦略	基本目標	
		施策	
	まちづくりビジョン	取組項目	
	根拠法令・個別計画等	国土調査法	

計画 (PLAN)	対象(誰を、何を)	市内全域の土地所有者		
	目的 ベストな状態 (期待される効果)	土地所有者の立会いのもと、一筆ごとの登記簿、公図を正確なものに修正するとともに地籍の明確化を図り、土地取引の円滑化、土地資産の保全、災害復旧の迅速化、固定資産税の課税適正化等、多岐に渡る土地利用の円滑化を図る。		
	概要 (具体的手段・ 全体計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・土地一筆ごとの立会調査を行ない、境界杭を設置し測量する。調査成果に基づき地籍簿、地籍図案を作成し、土地所有者に対して閲覧を行う。その後、国県の認証を受けたのち、成果を法務局へ送付し、登記内容を変更し不動産登記法第14条地図として備え付けられる。 ・山林部地籍調査推進補助金の交付 		
	令和2年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・一筆地調査、細部図根点測量、一筆地測量 柏原町柏原V、柏原町柏原VI、山南町金屋・岡本 ・地積測定、地籍簿及び地籍図作成 柏原町柏原II、柏原町柏原IV、山南町長野・大谷 ・森林組合が実施する山林部地籍調査の支援 	令和3年度の 事業概略	<ul style="list-style-type: none"> ・一筆地調査、細部図根点測量、一筆地測量 柏原町柏原VII・東奥、山南町谷川I、山南町谷川II ・地積測定、地籍簿及び地籍図作成 柏原町柏原V、柏原町柏原VI、山南町金屋・岡本 ・森林組合が実施する山林部地籍調査の支援

コスト(単位:千円)		令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考				
(評価年度は実績、計画年度は予算)												
歳出	総事業費 A+B	133,710	120,448	211,409	144,225	144,225	144,225					
	直接事業費A	98,778	85,142	176,103	108,919	108,919	108,919					
	総人件費計(E+H) B	34,932	35,306	35,306	35,306	35,306	35,306					
	職員従事者数(人・年) C	4.18	4.10	4.10	4.10	4.10	4.10					
	【平均人件費】D	7,400	7,460	7,460	7,460	7,460	7,460					
	人件費 E=C×D	30,932	30,586	30,586	30,586	30,586	30,586					
	会計年度任用職員従事者数(人・年) F	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00	2.00					
	【平均人件費】G	2,000	2,360	2,360	2,360	2,360	2,360					
人件費 H=F×G	4,000	4,720	4,720	4,720	4,720	4,720						
歳入	特定財源	47,550	26,997	90,508	66,682	66,682	66,682					
	国・県支出金	46,801	26,334	89,922	66,096	66,096	66,096					
	借入金(地方債)	0	0	0	0	0	0					
	受益者負担金	0	0	0	0	0	0					
	その他特財	749	663	586	586	586	586					
一般財源	86,160	93,451	120,901	77,543	77,543	77,543						
実施 (DO)	指標名		単位	目標 実績	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	備考	
	成果	単年度調査済面積	Km ²	目標	8.0	7.0	7.0	7.0	7.0	7.0		
				実績	7.0	9.1						
	成果	地籍調査実施済面積	Km ²	目標	157.0	164.0	171.0	178.0	185.0	192.0		
				実績	157.9	167.0						
	成果	進捗率	%	目標	33.0	34.2	35.7	37.2	38.6	40.1		
				実績	33.0	34.9						
	コスト			目標								
				実績								
	コスト			目標								
				実績								
	指標の推移等の背景・分析		森林組合実施の山林部地籍調査事業で前年度からの繰越事業があり、その実績を加えたことにより進捗率が計画より上昇した。									

事務事業名	地籍調査事業				
事業担当課	産業経済部 農林整備課	事業期間	平成 16 ~	無期	年度

事務事業全体の実施（DO）に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
	(必要性) 市民にとって必要な事業か。		A	復元性のある地籍図を作成することで、災害に強い街づくりと計画的に街づくりを進めることが出来る。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	A
(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価		A	一部翌年度に事業の繰越を行なったが、進捗は計画的に進んでいる。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	該当なし	

総合的な評価と課題（成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など）																																					
改革 (ACTION)	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナウイルス感染拡大に伴う移動制限などにより、立会調査に支障が生じ、結果、一部事業を翌年度に繰越することになった。 ・森林組合実施の地籍調査事業で、前年度より繰越した事業があったことにより進捗率が計画より上昇した。 																																				
	<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">今後の方向性・改善策等</th> <th colspan="4">成果・コストの方向性</th> </tr> <tr> <th colspan="2" rowspan="2">地権者、地元自治会、関係機関と協力し、計画的に調査事業を実施する。</th> <th colspan="4">成果・コストの方向性</th> </tr> <tr> <th>皆減</th> <th>縮小</th> <th>現状維持</th> <th>拡大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="4">成果の方向性</th> <th>拡充</th> <td></td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <th>現状維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>縮小</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>休廃止</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">コスト投入の方向性</p>	今後の方向性・改善策等		成果・コストの方向性				地権者、地元自治会、関係機関と協力し、計画的に調査事業を実施する。		成果・コストの方向性				皆減	縮小	現状維持	拡大	成果の方向性	拡充			✓		現状維持					縮小					休廃止			
今後の方向性・改善策等		成果・コストの方向性																																			
地権者、地元自治会、関係機関と協力し、計画的に調査事業を実施する。		成果・コストの方向性																																			
		皆減	縮小	現状維持	拡大																																
成果の方向性	拡充			✓																																	
	現状維持																																				
	縮小																																				
	休廃止																																				

●構成する予算小事業一覧

(単位：千円)

No.	予算小事業	コスト（評価年度は実績、計画年度は予算）					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	地籍調査事業	71,675	108,919	108,919	108,919	108,919	
2	地籍調査事業（繰越）	13,467	67,184				
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
合計		85,142	176,103	108,919	108,919	108,919	

丹波市総合計画 令和 2 年度事務事業評価 / 令和 3 年度実施計画

事務事業名 都市計画総務事業
事業担当課 建設部 都市住宅課
事業期間 平成 16 ~ 無期 年度
所属長 岡林 良尚 担当 向井 克仁 担当

位置づけ
総合計画 まちづくり目標 【2】誰もが住みたい快適生活のまち
施策目標 1【土地利用】都市機能と生活基盤が充実し、自然と調和した魅力的で活力あるまちをつくらう
創生総合戦略 基本目標 施策
まちづくりビジョン 取組項目 (4)安全・安心の機能確保
根拠法令・個別計画等 都市計画法、建築基準法、丹波市開発指導要綱、兵庫県建築基準条例、国土利用計画法、公有地の拡大の推進に関する法律

計画 (PLAN)
対象 (誰を、何を) 市内で開発を行う開発事業者、市内で建築物等を建築する事業者、都市計画情報を必要とする者、一定以上の面積の土地取引を行う者
目的 ベストな状態 (期待される効果)
概要 (具体的手段・全体計画)
令和2年度の事業概略
令和3年度の事業概略

コスト (単位:千円)
(評価年度は実績、計画年度は予算)
歳出
総事業費 A+B
直接事業費 A
総人件費計 (E+H) B
職員従事者数 (人・年) C
(平均人件費) D
人件費 E=CxD
会計年度任用職員従事者数 (人・年) F
(平均人件費) G
人件費 H=FxG
歳入
特定財源
国・県支出金
借入金(地方債)
受益者負担金
その他特財
一般財源

実施 (DO)
指標名 単位 目標 実績
活動 開発事業承認件数 件
活動 建築確認申請に係る土地等の調査件数 件
活動 特定用途制限地域内における適した建築物の建設数 件
成果 丹波市に住み続けたいと感じる市民の割合 %
コスト
コスト

指標の推移等の背景・分析
・新病院が建設されたことにより、病院周辺に集合住宅や分譲住宅等の開発件数が増加した。
・平成30年10月に丹波市開発指導要綱を改正し、太陽光発電施設設置の対象面積を下げたことにより、太陽光発電施設建設事業の開発件数については、横ばい傾向である。
・「丹波市開発指導要綱」や「特定用途制限地域における建築物等の用途の制限に関する条例」等により、ある一定の基準を以て開発指導及び建築誘導を図ったことにより、住環境の改善に繋がっており、定住意識が高まったと言える。

事務事業名	都市計画総務事業		
事業担当課	建設部 都市住宅課	事業期間	平成 16 ~ 無期 年度

事務事業全体の実施 (DO) に対する、事務事業の展開の評価・課題について						
評価 (CHECK)	評価視点	評価	理由・コメント	評価視点	評価	理由・コメント
		(必要性) 市民にとって必要な事業か。	A	・大規模な開発事業に関して、FIT法の改正(平成29年4月)、県太陽光条例施行(平成29年7月)、開発指導要綱改正(平成30年10月)により、治水防災面や生活環境面などにおいて、無秩序な開発を抑止することができ、数字には表れない効果が発揮されており、今後も継続して実施していく必要がある。 ・開発面積や建築物等の形態によっては、都市計画法や建築基準法等の法令、要綱に基づく、市固有の業務となっている。	(コスト) 改善・改革等により更に低コストで実施できないか。(サービス・成果は維持)	A
	(効果性) 成果につながっているか。進捗は予定どおりか。※成果指標に対する評価	A	土地利用に関しては、一定規模の開発に関して指導要綱に基づく指導等により、無秩序な開発の抑制につながっている。併せて、兵庫県緑豊かな地域環境の形成に関する条例や兵庫県景観形成条例に基づく指導により、開発時に景観等との調和が図られている。	(公平性・受益者負担) 公平性に問題はないか。受益者負担検討の余地はないか。	該当なし	開発事業者に対して、公平・公正に指導していることから、適正である。

改革 (ACTION)	総合的な評価と課題 (成果の達成状況及び評価結果から明らかになった課題事項など)																																					
		<p>・都市計画マスタープランの実現に向けた取組として、広域拠点 (稲継交差点周辺) 市街地整備構想に基づき、都市計画手法による特定用途制限地域の指定に関する都市計画決定 (平成28年4月1日施行) を行ったことにより、氷上IC・新病院周辺の建物誘致を図ることができた。</p> <p>・平成30年10月に開発指導要綱を改正したことにより、太陽光発電施設の設置については、ある一定の開発指導が図れた。</p> <p>・今後も、都市計画マスタープラン改定等に併せ、開発指導要綱及び運用基準を、適時、見直ししていく必要がある。</p> <p>・今後は、小規模な太陽光発電施設の建設や、設置後の維持管理並びに発電事業終了後の施設の撤去計画等における担保を取った指導について、関係部局と調整を図りながら、具体的なルールを構築していく必要がある。</p>																																				
	今後の方向性・改善策等	<p>・丹波市都市計画マスタープラン改定に伴い、今後も他部署と連携を取りながら、有効かつ適正な土地利用や建築誘導を行うために開発指導を行っていく。</p>																																				
		<table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2"></th> <th colspan="4">成果・コストの方向性</th> </tr> <tr> <th colspan="2"></th> <th>皆減</th> <th>縮小</th> <th>現状維持</th> <th>拡大</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <th rowspan="4">成果の方向性</th> <th>拡充</th> <td></td> <td></td> <td>✓</td> <td></td> </tr> <tr> <th>現状維持</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>縮小</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>休廃止</th> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p style="text-align: center;">コスト投入の方向性</p>						成果・コストの方向性						皆減	縮小	現状維持	拡大	成果の方向性	拡充			✓		現状維持					縮小					休廃止				
		成果・コストの方向性																																				
		皆減	縮小	現状維持	拡大																																	
成果の方向性	拡充			✓																																		
	現状維持																																					
	縮小																																					
	休廃止																																					

●構成する予算小事業一覧

(単位: 千円)

No.	予算小事業	コスト (評価年度は実績、計画年度は予算)					備考
		令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和6年度	
1	土地開発事業	748	1,053	1,053	1,053	1,053	
2	都市計画総務事業	341	12,377	12,377	12,377	12,377	
3							
4							
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
	合計	1,089	13,430	13,430	13,430	13,430	